

早期利上げ観測を後押しする米雇用統計

ポイント① 失業率は最大雇用水準を下回る

1月7日に発表された12月の米雇用統計によれば、非農業部門就業者数は前月比で19.9万人の増加となり、11月の同24.9万人から伸びが鈍化しました。一方で、失業率は3.9%と、FRB（米連邦準備制度理事会）の長期予測である4.0%を下回り、FRBが利上げの前提に定める「最大雇用」へ、一段の進展を示しました。また、平均時給も前月比で0.6%の上昇となり、失業率の低下とともに、FRBの早期利上げを後押しする材料となりそうです。

ポイント② 非製造業の人手不足は依然継続

業種別では、製造業や建設業など、小売業を除く広範囲の分野で就業者数が増加しました。12月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数でも、労働者不足などによる供給制約から上昇基調にあった「入荷遅延」の大幅な改善が確認でき、ISMは製造業について、労働資源に改善の兆しがみられる旨をコメントしています。一方で、非製造業では、高賃金を求める離職者が増えるなど、依然として労働需給がひっ迫する状況が続いています。オミクロン株の蔓延で、新型コロナウイルスの感染者数が増加する米国の現況を踏まえると、人手不足にさらなる拍車がかかる可能性もありそうです。

ポイント③ 利上げは3月開始との見方強まる

今回の雇用統計を受け、米10年債利回りは一時1.8%台まで上昇し、パンデミック前の2020年1月以来の高水準となりました。同統計に加えて、5日に公表された昨年12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨で、3月にも利上げを始める可能性が示されたことを踏まえ、市場では利上げが3月に開始されるとの見方が急速に強まっています。

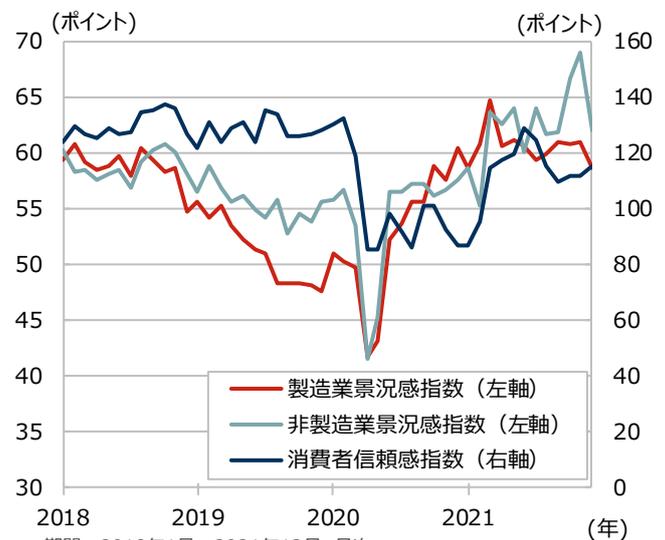
米国の失業率と非農業部門就業者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.4	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.5	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.0	61.7	14,433	26.9
5月	5.8	61.6	14,494	61.4
6月	5.9	61.6	14,590	96.2
7月	5.4	61.7	14,699	109.1
8月	5.2	61.7	14,748	48.3
9月	4.7	61.7	14,786	37.9
10月	4.6	61.7	14,850	64.8
11月	4.2	61.9	14,875	24.9
12月	3.9	61.9	14,895	19.9

(注) 労働参加率 = 労働人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と
コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2018年1月～2021年12月、月次

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	1月12日	米消費者物価指数 (12月)
	1月14日	米小売売上高、米鉱工業生産指数 (12月)